

巻頭言

技術の進化と夢

Technical Evolution and Dreams

執行役員
建機マーケティング本部
マイニング事業本部長



岩田 和彦
Kazuhiko Iwata

昨年9月のアメリカでの金融恐慌に端を発し、100年に一度といわれる世界的経済危機が起きてからほぼ一年が経過しました。どんなトンネルにも必ず出口はありますが、出口で見える景色はこれまでの景色とは違ったものになっていると言われています。50年後に振り返ってみれば、この景色の変化も過去の変化と同様、歴史の一コマとして位置づけられるに過ぎないのでしょうか、この渦中に人生を過ごしている私たちにとっては一大事であると同時に、この変化に対する舵取りが次世代に何を残せるかを左右する重要な局面でもあると言えます。コマツのように『モノ作り』を生業とする企業にとっては技術の進化が今後の舵取りに大きな役割を果たすことは間違いありません。

技術の進化は、それ自体が社会の変化を促す場合もあれば、社会の変化によって技術の進化が加速する場合もあるでしょう。いずれにせよ、どんな技術の進化であっても、芽を吹いて（技術の実用性が検証される）から花を咲かせる（技術が量産化され社会一般に使用される）までには時間がかかり、一個人や一部門で完結することもあり得ません。KOMTRAX、ハイブリッド油圧ショベル、無人ダンプ等に代表される、現在コマツが他社に先駆けている先進（ダントツ）技術のどれを取ってみても、ここに至るまでの技術者を初め関係者の苦勞・努力は並大抵ではありませんでしたし、ここで終りでもありません。又、同時に環境規制に対応するTIER4機種の開発にも現在大変大きな開発パワーが投入されていますし、安全・信頼性や収益性を高める為の地道な改善努力も日常的に行われている訳です。このように、ダントツ性の追求、規制・環境対応、安全性や日常の改善活動と現在の技術者の抱える課題は外界の景色の変化と呼応しながら変化することはあっても決して減ることは無いでしょう。インドネシアの鉱山と協力してスタートしたバイオディーゼル燃料を実用化するためのプロジェクト、以前から報道もされているアンゴラ・カンボジアでの地雷処理機を使った地雷除去活動等、技術者が従来考えていた範囲を超えた活動も今後増えていくことでしょう。

このような環境下で様々な分野にわたる技術の進化を、他社に先駆けてしかも継続的に成し遂げていく為には何が必要なのでしょう。技術の進化は『人間とその集団の知恵と行動の成果』ですから、先ず誰かの意志が無ければ前には進みませんし、進む方向がマチマチでは勢いがつかないことは明らかです。この知恵と行動の成果を『各個人が発揮する能力ベクトルのある一致した方向成分の総和』と考えれば、集団に含まれる個々のベクトルのその方向成分を強化し、逆方向成分をもつベクトルを排除すればより可能性・効率が上がる理屈になります。本当はそうでしょうか。それよりも、方向に関係なく個々のベクトルのエネルギーを高め、それらのぶつかり合いで更に様々な方向へのエネルギーを得た結果としてある方向成分が高まる方が良いでしょう。

巻頭の言に投稿する機会を得て、こんな漠然とした思いを振り返っていた時に飛び込んできたのが、コマツもスポンサー契約しているニューヨークヤンキースの松井秀喜選手がワールドシリーズで大活躍し、ヤンキースがシリーズ制覇すると同時に松井選手も日本人として初のMVPを受賞したとのニュースでした。『何か夢みたい』、ここ数年の故障にも『どんなときも野球がしたい、勝ちたい、いいプレーをしたい、そういう気持ちがずっとありましたので、決してつらいことはないです』とは報道された松井選手のコメントですが、彼の活躍を見て気持ちが新たになったのは皆さんも同じではないかと思えます。

夢を持ち続けてどんな苦境にあっても目標に立ち向かっていく、前述した当社のダントツ技術や技術の進化が生まれてくる時にはそんな人や集団が必ず存在していました。これからもそんな人や集団の存在、それを支える社内外のサポーター、いずれの立場であってもいいから技術の進化という夢を追い続けたい、とは思いませんか。